



祖母・傾・大崩 [第4号]

ユネスコエコパークだより

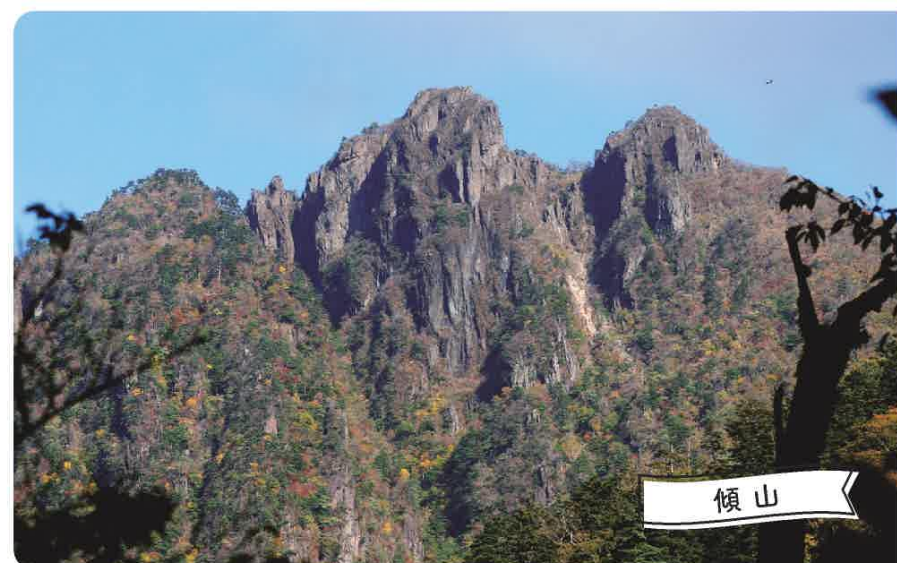
2026.1

祖母・傾・大崩ユネスコエコパークについて

そぼ かたむき おおくえ
祖母・傾・大崩周辺エリアでは、九州最高峰級の山々が連なり、そこから美しい渓谷が広がっています。

このエリアでは、希少な動植物が生息し、住民がうまく自然とつきあい、持続的な利活用が図られています。

これらが国際的に評価され、このエリアは、「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」として2017年6月に認定を受けました！



ユネスコエコパークとは

ユネスコエコパーク（正式名称：生物圏保存地域 Biosphere Reserves）は、生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目的として、1976年に国連機関の一つである国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）が開始した事業です。

「世界遺産（自然遺産）」が手つかずの自然を守ることが原則とする一方、ユネスコエコパークは自然と人間社会の共生が目的となっており、その地域に暮らす人びとの営み（農林水産業や芸能、伝統文化）も評価されているのが特徴です。

30by30（サーティ・バイ・サーティ）について

いわゆる「30by30目標」とは、2030年までに、陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標です。2022年12月に生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）で採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」では、2030年グローバルターゲットの1つに盛り込まれました。

30by30目標は、国立公園などの保護地域だけでなく、保護地域以外で生物多様性保全に資する地域（OECM：Other Effective area-based Conservation Measures）の設定・管理を通して達成していくことになります。

目標達成のためには、国の取組を推進することに加え、民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域を広げていくことも重要です。（環境省HPより抜粋）

日本国内においては、生態系や希少な動植物が保全された地域を「自然共生サイト」へ登録することでOECMを広げていきます。祖母・傾・大崩ユネスコエコパークでは、エリア内の「自然共生サイト」登録に向けた機運を高めるため、令和7年6月に「30by30アライアンス」に登録し、情報収集や研鑽を行っています。自然共生サイトに興味がある、登録を検討したいという方は、どうぞ各地域のユネスコエコパーク担当者へお問合せください。



ブランド認証 について

令和6年度より、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの豊かで貴重な自然環境やそれらを背景にした技術を活かして生産される農林産物を対象としたブランド認証制度をスタートさせました。この制度では、環境にやさしい方法で栽培された農林産物や、地域に根ざした伝統的な技術で育てられてきた農林産物を対象とし、地域資源の持続的な活用を推進するとともに、地域社会経済の発展に寄与することを目的としています。

令和6年度は、2回のブランド認証審査会を開催し、計7事業者の農林産物がブランド認証品として登録されました。これらの認証品には、協議会から交付された認証シールが貼付されており、販売時にひと目で分かるようになっています。お店などでこのシールを見かけた際は、ぜひ手に取っていただき、地域の自然と人の営みが育んだ味わいを感じてみてください。

令和7年8月17日には、大分県豊後大野市の道の駅原尻の滝で、ブランド認証品の魅力発信を目的とした試食・販売会を開催しました。当日は6つのブランド認証事業者

が参加し、それぞれが誇るブランド認証産品などを持ち寄って、来場者の皆さまに試食と販売を行いました。生産者自らが商品の特徴やこだわりを丁寧に説明し、来場者との交流を楽しむ姿も見られ、試食を通じて会場はにぎわいを見せていました。

当日は、ブランド認証品を購入された方や、推進協議会のインスタグラムをフォローしてくださった方を対象に、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークのオリジナルグッズが当たる抽選も行い、大変ご好評をいただきました。

今後も、ブランド認証制度の認知拡大と地域の活性化を目指し、さまざまな取り組みを続けてまいります。

ブランド認証品は随時募集中ですので、ご興味のある方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。



【ブランド認証シール】

大分県 竹田市 Taketa City

▶ 親子自然観察会

神原地域で活動している「祖母山麓自然・人共生空間整備プロジェクト実行委員会」主催で、市内外の小学生とその保護者を対象に「親子自然観察会」を毎年開催しています。今年は祖母山麓の川で水生昆虫や魚の観察会、竹水鉄砲づくりを実施しました。この取組みを通して、子どもたちが自然を体感し、楽しみながら郷土の自然の成り立ちへの理解を深めることができ、環境保全の意識向上につながっています。



▶ 祖母山グッズ作成

「祖母山麓自然・人共生空間整備プロジェクト実行委員会」が祖母山Tシャツなどのグッズを作成し、神の里交流センター「緒環」で販売しています。昨年は、新たに手ぬぐいと登山記念手形を作成しました。手ぬぐいには祖母山系の山々やニホンカモシカやツクシアケボノツツジといった希少な動植物、地元住民を守る健男霜凝日子神社、清流を泳ぐアマゴ、満天の星が描かれています。また、登山手形は祖母山系で育ったヒノキの間伐材を活用しており、祖母山1合目駐車場で無人販売しています。これらの祖母山グッズの売上の一部は祖母山の登山道整備等の活動資金に充てられています。



大分県 豊後大野市 Bungo Ono City

▶ 豊後大野市子ども神楽大会

令和7年2月、豊後大野市内の子ども神楽団体による「豊後大野市子ども神楽大会」が開催されました。コロナ禍の影響もあり、実に5年ぶりの開催となりました。地域の歴史や文化に誇りを持つ、郷土愛あふれる子どもたち7団体が、勇壮な舞を披露しました。今年度も、令和8年2月7日(土)に「子ども神楽大会」を開催する予定です。詳細につきましては、祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク推進協議会のホームページやSNS等で、今後お知らせいたします。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



▶ 登山手形を製作中です！

豊後大野市では、日本百名山のひとつである祖母山の登山記念として、「登山手形」を作製中です。この取り組みは、竹田市の「祖母山麓自然・人共生空間整備プロジェクト実行委員会」による登山手形の活動を参考に、複数の登山コースを楽しんでいただくことを目的として企画されたものです。エコパークエリア内産の木材を使用したキーホルダー型で、市内の障がい福祉施設に製作を委託しています。祖母山九合目山小屋などでの販売を予定しており、詳細が決まり次第、豊後大野市のホームページ等でお知らせいたします。



大分県 佐伯市 Saiki City

▶ エコパーク体感事業

エコパークの普及啓発と自然の大切さや厳しさを体感してもらうことを目的に、佐伯市内の小中学生を対象とした「エコパーク体感事業」を実施しています。まず、事前授業でエコパークや生物多様性等について説明し、後日、藤河内溪谷でキャニオニングまたはトレッキングを行います。今年度は13校から申し込みがあり、計16回、322人の子どもたちが体験しました。自然の美しさに感動したり、水の力強さに驚いたり、勇気を出して飛び込みをしたり、全身を使って自然を体感しました。



▶ エノハのつかみ取り体験

エコパークの普及啓発と自然の恵みや命について考えてもらうことを目的に、小学生を対象とした「エノハのつかみ取り体験」を実施しています。自然の中でエノハをつかみ取り、その場で塩焼きにして食べるというものです。今年度は8月2日(土)に実施し、小学生と保護者あわせて32人の参加がありました。佐伯市では、年間を通して、普及啓発事業や次世代育成事業等を行っています。インスタグラムや佐伯市ホームページ等でも随時情報発信しておりますので、是非ご応募ください。



ユネスコエコパーク 各地域の取り組み

宮崎県 高千穂町 Takachiho Town

▶ 五ヶ所高原希少植物観察会

令和7年7月30日(水)、高千穂町の五ヶ所三秀台にて、五ヶ所高原希少植物観察会が開催されました。高千穂中学校生徒と一般の方、総勢で22名に参加して頂きました。このイベントは高千穂町に生息する希少な植物やユネスコエコパークについての認識を高めることを目的としています。植物の専門家の解説を聞きながら、何種類もの希少植物を発見することができました。



▶ 夏の沢遊び in 岩戸川

令和7年8月21日(木)・22日(金)、高千穂町の岩戸川にて、町内の小学6年生を対象に夏の沢遊びが開催されました。このイベントは「キャニオニング」を通して自然を体感し、楽しみ、この自然を守っていききたいという気持ちを児童の中で芽生えさせることを目的としています。前半は水を怖がっていた子供たちも後半になると、勢いよく水に飛び込み、笑顔で楽しんでいました。(協力: Joyn 甲斐 有香氏、テントテントツアーズ)



宮崎県 日之影町 Hinokage Town

▶ 日之影町神楽まつり 次世代育成事業

令和7年11月8日に「第39回日之影町神楽まつり」が開催されました。「伝統継承・次世代育成」のコンセプトのもとプログラムを構成し、日之影町の神楽保存会7団体のほか高千穂高校神楽保存会、宮崎県諸塚村の小原井神楽保存会や大分県大分市の二豊神社など10団体が出演し、全18演目が披露されました。町内外から多くの人々が訪れ、奉仕者の精悍な舞に魅了されていました。町外の保存会との交流や今後の次世代育成につながる貴重な機会となっています。



▶ Clean 活動デー

令和7年度11月29日、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークエリア内でClean活動デーとして清掃活動が行われました。日之影町では見立せせらぎの里で開催し、総勢7名に参加していただきました。地域住民のご協力により、合計2袋のゴミを回収することができました。参加記念品としてオリジナルグッズを進呈し、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの普及啓発を行うとともに、環境保全の意識を高めることに繋がりました。



宮崎県 延岡市 Nobeoka City

▶ 延岡高等学校の取組

令和7年4月に宮崎県立延岡高等学校がユネスコ本部による審査を経て、ユネスコスクールに登録されました。延岡高等学校は、教訓である「剛健・自治・信愛」の中で、「故郷と人を愛し、グローバルな視野を持ち、他と協働しながら物事を探求できる生徒」の育成を目指しています。ユネスコスクールの活動をスーパーサイエンスハイスクール事業の一環として、地域の企業と協働し、地元の子どもを対象にした実験教室や海外とのオンライン共同研究、短期留学等を通じた異文化交流、豊かな自然に直接触れるとともに、地域の課題について考えるフィールドワーク等を実施しています。



▶ 北川小学校・北川中学校の取組

令和7年6月に延岡市立北川中学校が、同年9月に延岡市立北川小学校がユネスコ本部による審査を経て、ユネスコスクールに登録されました。

北川小学校では、持続可能な開発目標(SDGs)17の目標について理解を深め、それらを教育活動全般において意識し行動すること、また、地域の良さや課題に目を向け、ふるさとを愛する児童の育成を目指して、各学年で「北川の豊かな自然環境との共生」をテーマとした学習に取り組んでいます。

北川中学校では、「祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの豊かな自然環境との共生」を活動テーマとして、ユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野の1つである「持続可能な開発および持続可能なライフスタイル」を通して「地域に貢献する力」の育成を目標としています。

